2024年4月24日 | No.1350

東欧経済ニュース

FBC Weekly Business Newsletter

今週のトピックス

- ハイブリッドVTOLのズリ、「アエロ2024」でテストベッドを展示
- 露ヤンデックスの新サービス「Neuro」、検索と生成AI機能を統合
- 独ラインメタル、ハンガリーに軍備・民生のハイブリッド工場を建設

- ポーランドのオルレン、モビリティ向け水素インフラ整備でEU助成獲得
- ウクライナの水素開発プロジェクト、戦火の中でも前進

スロバキアのイノバット

電動車用バッテリーの量産を開始

電動車向けバッテリーを手がけるスロバキアのイノバットは22日、ブラチスラバ近郊のヴォデラディ工場でバッテリーセルの量産を開始したと発表した。同国でバッテリーセルが生産されるのはこれが初めて。

FBC Business Consulting GmbH
Address: August-Schanz-Str.8, 60433, Frankfurt am Main, Germany
Telephone: 069-5480950 Fax: 069-54809525 Email address: fbc@fbc.de
Website: https://fbc.de

テクノロジー

スポーツコーチ向けアプリの「フォーアクティブ」、160万ドルを調達 3
ハイブリッドVTOLのズリ、「アエロ2024」でテストベッドを展示 4
ハイパーループ開発のスイスポッド、ルーマニアの投資プラットフォームで資金調達 .. 4
露ヤンデックスの新サービス「Neuro」、検索と生成AI機能を統合 5

スタートアップ企業

HRテック開発　Jobful（ルーマニア） 6

自動車

仏ミシュラン、ポーランドの大型トラック用タイヤ工場を閉鎖 7
独ラインメタル、ハンガリーに軍備・民生のハイブリッド工場を建設 7
スロバキアのイノバット、電動車用バッテリーの量産を開始 8
ルーマニアの自動車生産が好調、フォードがけん引 8
自動車施錠システムの独フーフ、ルーマニアに試験施設を開設 9
EBRD、セルビアの照明部品メーカーに1500万ユーロ融資 10
アフトワズ、「ラーダ」のイラン発売予定に変更なし 10

その他産業

ポーランドのオルレン、モビリティ向け水素インフラ整備でEU助成獲得 11
伊産業ガスSIAD、スロバキアでCO_2回収・液化設備が稼働 12
ジェネリック薬サンド、スロベニアでバイオシミラーの開発拠点を着工 12
建材大手の独クナウフ、ロシアから撤退へ 13
ウクライナの水素開発プロジェクト、戦火の中でも前進 13

総合・マクロ

資本市場統合に向け協議加速、競争力強化へ域内の投資促進 14
ユーロ圏の24年予想成長率、0.8％に下方修正＝IMF 15

編集後記 15

FBCでは、読者の皆様と共に誌面作りに取組みたいと考えております
お気づきの点やご意見・ご感想など、ぜひお気軽にお寄せください

FBC Customer support
+49-(0)69-5480950　**info@fbc.de**

©2024 FBC Business Consulting GmbH

テクノロジー

スポーツコーチ向けアプリの「フォーアクティブ」、160万ドルを調達

- **個人事業主のコーチの運営業務の手間を省くサービス**
- **謝礼の回収漏れや伝達事項の連絡漏れを防ぐ**

ForActive 創業者のビエガンスキ氏

自営業のスポーツコーチ向け決済・通信アプリを開発するポーランドの新興企業フォーアクティブ（ForActive）が、シードラウンドで160万米ドル強を調達した。ジムやヨガ、水泳、ダンスなどのコーチとして働く人に、謝礼回収や、連絡の手間を省くツールを提供することを目指している。

フォーアクティブを創業したのは、保健・美容業界向け予約アプリ企業「ブックシー（Booksy）」の経営に携わっていたマーチェイ・ビエガンスキ氏だ。ダイビング、クライミングを個人事業主のコーチから教わった経験から、このアプリの開発を思い立ったという。

コーチ料回収に使える決済アプリは企業用からペイパル、ヴェンモに至るまで数多く、統一しづらい。支払い遅延や直前のキャンセルも問題だ。

また、チャットアプリも様々で、同じメッセージを複数回送らなければならない状況が生じている。

フォーアクティブではこれらの課題を解決し、謝礼の回収漏れや伝達事項の連絡漏れを防ぐことを目的としている。

今回の調達ラウンドでは米国のff ベンチャーキャピタルとポーランドのモーヴェンス（Movens）キャピタルがリードインベスターを務め、コンラード・ホヴァルド氏（Konrad Howard ：「ブックシー」の共同創業者）、ヴィタル・ラプテノク氏（ポーランド投資会社フライヤーワン・ベンチャーズのジェネラルパートナー）も投資した。

フォーアクティブ社ホームページ
https://www.foractive.com/

OST42089

経済活動に大きく影響する
EUの政策動向をお伝えしています

欧州経済ウオッチャーを読んで
今のEUを知ろう

FBC

©2024 FBC Business Consulting GmbH

ハイブリッドVTOLのズリ

「アエロ2024」でテストベッドを展示

- **ディーゼル発電機を搭載し 700 キロの移動を可能に**
- **試作機は操縦者を含めた重量を 600 キロ以下に抑える**

ハイブリッド垂直離着陸（VTOL）を手がけるチェコの新興企業ズリ（Zuri）が、独フリードリヒスハーフェンの航空ショー「アエロ 2024」で実証試験用のプラットフォーム（テストベッド）「スケルトン」を展示した。商用化を目指す VTOL の60%の大きさで製作されたもので、搭載される電気・電子機器のテストに使われる。地上試験が完了すると、その結果を盛り込んだ形で、今度は実際に飛ぶプロトタイプを製作することになる。パイロットを含めた機体重量を 600 キロ以下に抑える。

商用化を目指す「ズリ 2.0」は 5 人乗り。垂直発進用にティルトローターを 8 基、効率よく前進するための固定翼を 2 対備える。純粋な電動 VTOL は航続距離を延ばすのが難しいため、ディーゼル発電機を搭載して 700 キロの移動を可能にした。将来的には SAF（持続可能な航空燃料）を採用することで環境負荷をさらに抑える計画だ。

時速は商用モデルで 300 キロ。コンパクトな作りで高層ビルの屋上にも着陸できるという。高性能の航空電子機器（アビオニクス）およびナビゲーションシステムを搭載し、人工知能（AI）を活用した障害物認識能力も持つ。

ズリは昨年に続き、パイロットだけでなく乗客も一緒に疑似体験できるフライトシミュレーターも展示した。

OST42090

ハイパーループ開発のスイスポッド、ルーマニアの投資プラットフォームで資金調達

- **英ヴァージングループのブランソン会長は同社への出資に意欲**
- **ハイパーループはテスラのイーロン・マスク氏が提唱**

ルーマニアの起業家がスイスで設立したスタートアップ企業、スイスポッド･テクノロジーズが、超高速の次世代交通システム「ハイパーループ」技術の研究資金を、ルーマニアのテック系スタートアップ投資プラットフォーム「シード･ブリンク」で調達する考えだ。総額 700 万ユーロの資金調達ラウンドの一環として 20 万ユーロの確保を目指している。ニュースサイト『bne インテリニュース』が 19 日に伝えた。

ハイパーループは真空近くまで減圧した大口径鋼管内で磁気浮上式旅客・貨物カプセルを時速 1,000 キロ以上の超高速で運行する交通システム。空気抵抗が小さいためのエネルギー消費量が少ないうえ、二酸化炭素（CO_2）も排出しないことから持続可能な交通手段と目されている。米テスラのイーロン･マスク氏が 2013 年に提唱した。

ハイパーループを巡っては、同技術の開発を進める米ハイパーループ・ワンが昨年 12 月に破産宣告し事業を停止した。同社に出資していた英ヴァージングループのリチャード・ブランソン会長はスイスポッドへの出資に意欲を示しているという。

OST42091

©2024 FBC Business Consulting GmbH

露ヤンデックスの新サービス「Neuro」

検索と生成AI機能を統合

- **ニューロはロシア国内のユーザーが利用可能**
- **複数のオンラインソースを調べる必要がある場合に特徴を発揮**

ロシアのテクノロジー大手ヤンデックスは16日、検索と生成AI機能を統合したAI製品「ニューロ（Neuro）」のサービス提供を開始したと発表した。ロシア国内のユーザーがヤンデックスのブラウザおよびアプリを介して利用できる。

ニューロはヤンデックスの検索エンジンと、独自の大規模言語モデル（LLM）の長所を組み合わせている。ユーザーの質問に対し、検索機能がインターネット全体から関連する情報源を選び、最新バージョンのLLM「ヤンデックスGPT3」が分析したうえで、すべての情報源を引用した簡潔な応答に要約する。

特に複数のオンラインソースを調べる必要がある場合に特徴を発揮する。ユーザーはチャット機能で随時、検索の精度を高めるためのQ&A（質問・回答）ができる。ベースとなるAIは日常言語を理解するため、ユーザーは自分の言葉による質問が可能。画像にも対応しており、たとえば彫像の写真をアップロードして、それにまつわる都市伝説などを尋ねることもできる。

ニューロは回答を引き出すため、特定のデータベースからではなくリアルタイムの検索結果のみを活用する。これにより提供される情報は常に最新で、関連性と正確性が高いものとなる。

OST42092

FBCのロングリスト調査は

① 貴社の案件に合う対象企業をヨーロッパ全土から探します
② 全ての企業に貴社のプレゼン資料を送付
③ その後メール・電話で興味の有無を1件1件確認します

新たなビジネスパートナーを探します

©2024 FBC Business Consulting GmbH

スタートアップ企業

採用活動のゲーム化で企業の人材獲得を支援

Jobful（ルーマニア）

HRテック開発

HR（Human Resources）テックのスタートアップ。雇用主に対しゲームの要素を取り入れた（=ゲーミフィケーション）採用ソリューションを提供している。人材採用に悩む企業がゲーム的な採用活動を通じて候補者のスキルや適性を見極め、優秀な人材を獲得できるよう支援する。

企業側は自社の採用プロセスにJobful の採用ゲーミフィケーション・モデルをオーダーメードの形で組み込める。ユーザー（求職者）は採用プラットフォームにアクセスし、生年月日、連絡先、外国語のスキル、職歴や経験、学歴を入力。「チャレンジエリア」にて自身のスキルをテストする様々なゲーム化されたタスクに取り組む。結果はAIによる分析を経て企業側に伝わり、正確性の高い候補者情報として判断に使われる。

サービスは主に1980年代前半から90年代半ばに生れたミレニアル世代と、それに続くZ世代を対象とした人材採用活動を想定している。

2018年の設立。創設者のミハイ・セポイ氏は2019年にフォーブス誌の「世界を変える 30 歳未満の 30 人」に選ばれ、同年中に10万ユーロの融資を受けた。人材採用の世界をデジタルな遊びの場に変え、より魅力的な人材獲得のプロセスを創出することを目的に活動している。2023 年には欧州復興開発銀行から「Star Venture 2023」に選ばれた。

Jobful
Bucharest, Romania
echipa@jobful.ro　https://jobful.io/

OST42093

FBCのショートリスト調査は

① ロングリスト調査の結果、興味・関心を示した企業の担当者を割り出します
② 当該企業の主な取引先や競合他社などのデータも入手します
③ ショートリストとして提出します

このデータをもとに即営業を開始できます

©2024 FBC Business Consulting GmbH

自動車

仏ミシュラン、ポーランドの大型トラック用タイヤ工場を閉鎖

- **年末を目途に操業を停止し、生産をルーマニアに移管する予定**
- **閉鎖の決定は「極東」からの安価なタイヤ製品の流入が理由**

仏タイヤ大手のミシュランはこのほど、ポーランド北部のオルシュティンにある大型トラック用タイヤ工場を閉鎖すると発表した。製造コストの上昇が理由。今年末を目途に操業を停止し、生産をルーマニア工場に移管する予定。人員削減の計画は無く、従業員430人はオルシュティンにある他のミシュラン工場に異動する。

ミシュランのピョートル・スタザウェク広報担当は閉鎖の決定について、「極東」からの安価なタイヤ製品の流入を理由に挙げた。同氏は「トラック用タイヤ市場は特に競争が激しくなっている。当社はより経済的で実行可能な生産方法を模索している」と述べた。

ミシュランは1995年にタイヤメーカーのストミル・オルシュティンを買収してポーランドに進出した。同国では近年、人件費が上がっており、FCAパワートレインやリーバイ・ストラウス、ノキアなどの多国籍企業が相次いで人員削減を発表している。

OST42094

独ラインメタル

ハンガリーに軍備・民生のハイブリッド工場を建設

- **生産の9割は自動車産業向けに電子部品や水素関連製品を生産**
- **残り1割は軍事用電子機器を製造する**

起工式の様子

独軍需・自動車部品大手のラインメタルはこのほど、ハンガリー南部のセゲドで新工場を着工したと発表した。パワーシステム部門が運営する新工場は同社初の大規模なハイブリッド施設となり、軍需品と民生品の両方を生産する。総投資額は6,300万ユーロ。2025年8月の稼働開始を予定する。

工事の第1段階として、8万5,000平方メートルの敷地に床面積1万5,000平方メートルの工場を建設し、最大300人の高度人材を雇用する。生産スペースの約9割は自動車産業向けで、ナノ構造コンデンサーなどの電子部品や、水素関連の製品を生産する。残り1割は軍事用電子機器の製造となる。

ラインメタルはハンガリーにおいてブダペスト、ザラエゲルセグ、ヴァールパロタの3工場を持つ。パワーシステム部門は主に自動車業界やエネルギー産業向けに様々なシステムソリューションを提供している。

OST42095

©2024 FBC Business Consulting GmbH

スロバキアのイノバット

電動車用バッテリーの量産を開始

- **スロバキアでバッテリーセルが生産されるのはこれが初めて**
- **ヴォデラディ拠点の工場整備には中国企業が協力**

電動車向けバッテリーを手がけるスロバキアのイノバットは 22 日、ブラチスラバ近郊のヴォデラディ工場でバッテリーセルの量産を開始したと発表した。同国でバッテリーセルが生産されるのはこれが初めて。同社はスウェーデン、ノルウェー、ドイツ、フランスに続いて欧州の品質基準を満たすバッテリー生産国の仲間入りを果たしたとしている。

今回生産を開始したのはヴォデラディ拠点の VoltaI工場で、年産能力は最大 5 万個。中国の無錫先導智能が生産ラインを設置した。同拠点で建設中の VoltaII工場は中国のリチウムイオン電池大手、合肥国軒高科動力能源（国軒高科）の支援を受けて整備する。完成後は最大 4 ギガワット時（GWh）の生産能力を持つイノバット初のギガファクトリーとなる。

イノバット創業者兼社長のマリアン・ボチェク氏は、「我々はバッテリーを作るだけでなく、顧客のニーズに合わせて設計し、調整を行う。これには卓越したスキルと専門知識が必要だが、それをスロバキアで実現できたことを誇りに思う」とコメント。スロバキア e モビリティ協会のクリジャンスキー会長は、「研究開発の好条件とインセンティブがあれば、スロバキアでも世界で通用するイノベーションが生まれる可能性があることをイノバットは証明している」と述べた。

OST42096

ルーマニアの自動車生産が好調、フォードがけん引

- **Q1 の生産台数は 15 万 2,912 台、前年同期から 7.1%増**
- **フォードは前年同期比 26.8%増、ダチアは 3.1%減**

ルーマニアの自動車生産が好調だ。フォード・オトサンとルノー・ダチアを合わせた生産台数は 1-3 月期（第 1 四半期）に 15 万 2,912 台となり、前年同期から 7.1%増えた。フォードの生産拡大がけん引している。ニュースサイト『bne インテリニュース』が 18 日に伝えた。

フォード・オトサンは米フォードのトルコ合弁で、ルーマニアでは南部のクラヨバに工場を持つ。1-3 月期の生産台数は前年同期比 26.8%増の 6 万 715 台。3 月の月産台数は同工場として初めて 2 万 5,000 台を超えた。

クラヨバ工場では SUV「プーマ」と「エコスポーツ」に加え、昨年 12 月からはパネルバン「トランジット」と小型商用車「トルネオ・クーリエ」の生産も開始した。排気量 1 リットルの「エコブースト」ガソリンエンジンも生産している。

ルノー・ダチアが中南部ミオベニに持つ工場では、人気 SUV「ダスター」のモデルチェンジなどが響き、1-3 月期の生産台数は前年同期比 3.1%減の 9 万 197 台に縮小した。

2 社を合わせた 2023 年通年の生産台数は前年比 0.7%増の 51 万 3,050 台（小型商用車含む）。メーカー別ではフォードが 2%減の 19 万 964 台、ダチアが 2.5%増の 32 万 2,086 台だった。

OST42098

©2024 FBC Business Consulting GmbH

自動車施錠システムの独フーフ、ルーマニアに試験施設を開設

- **試験施設「TCRL」は同社の技術センターの中で最大規模**
- **ドアハンドルやデジタルキーなどの製品の試験と検証を行う**

自動車用施錠システムを手がける独フーフは16日、ルーマニア西部ティミショアラの拠点に製品試験の基幹施設を開設したと発表した。「ルーマニア技術研究所（TCRL）」と呼ばれる同施設はフーフの技術センターの中で最大規模。主にドアハンドルやデジタルキーなどの製品の試験と検証を行う。

TCRL は敷地面積が 1,700 平方メートル。フーフが欧州5カ国（ポルトガル、スペイン、ポーランド、ドイツ、ルーマニア）に持つ拠点すべてにサービスを提供する。

同社は2006年、ハンガリー国境に近いアラドに工場を設けてルーマニアに進出した。11年にはティミショアラに研究開発（R&D）センターを設立。現在、アウディ、BMW、フォード、GM、PSAなどのメーカー向けに、パッシブ・エントリーシステム、トランクの自動開閉用センサー、携帯電話システムのインターフェース用ソフトウエア・ソリューションを開発している。

フーフはルーマニア全体で約1,000人を雇用している。31年までに売上高20億ユーロを達成する目標にとり、同国は重要な役割を果たすと期待されている。

TCRL の外観

試験装置

OST42097

©2024 FBC Business Consulting GmbH

EBRD、セルビアの照明部品メーカーに1500万ユーロ融資

- **フェカの親会社はトルコの自動車照明部品メーカー**
- **同社はトヨタ、VW、ステランティスなどに製品を供給**

フェカのセルビア工場

欧州復興開発銀行（EBRD）は17日、セルビアの自動車照明メーカー、フェカ（Feka）に1,500万ユーロを融資すると発表した。フェカは資金を同国中部にあるチュプリヤ工場の生産能力向上に振り向ける。同社は製品をトヨタ、フォルクスワーゲン（VW）、ステランティスなどに供給している。

フェカはトルコの自動車照明部品メーカー、フェカ・オートモーティブの子会社。チュプリヤ工場は2020年に操業を開始した。今回のEBRDの融資資金を使って、既存工場に隣接する新生産棟の建設や、建物屋上のソーラーパネルの設置、エネルギー効率の高い最新の生産ライン・設備を導入する計画だ。

OST42099

アフトワズ、「ラーダ」のイラン発売予定に変更なし

- **同社は現地メーカーと提携しダチア車ベースの新モデルを開発**
- **イランメーカーによるロシアへの輸出計画は白紙に**

ロシア自動車大手のアフトワズのマクシム・ソコロフ社長は16日、国営タス通信の取材に対し、イランへ年内に輸出を開始する計画に変更がないと話した。中東情勢の悪化については、「（政情の）緊迫は過ぎ去るもの」とコメントしている。

アフトワズは「ラーダ」で知られる大手乗用車メーカー。仏ルノーの子会社だった時代は、複雑な部品を西欧から調達して車両を生産していた。しかし、ロシアの対ウクライナ侵攻でルノーが撤退し、部品不足で生産停止に追い込まれるなど、困難に直面した。

解決策の一環として、厳しい経済制裁にさらされているイランと提携する方針を打ち出し、イランの第二の乗用車メーカーでルノーと提携したことのあるサイパーと、第一世代ダチア・ロガンをベースに新モデル「サンデロ（Sandero）」を共同開発した。同モデルにはアフトワズ製のエンジンブロックが採用されている。

「ラーダ」のイラン市場参入については、昨年12月にソコロフ社長が「完成車の輸出を検討している」と発表した。しかし、現地の販売代理店ニカ・モータースはこれまでのところ、販売モデルの型式登録や供給予定を発表していない。

アフトワズも予定販売台数を明らかにしていない。ただ、イランの乗用車販売台数が22年3月～23年3月（イラン暦の新年は春分）に102万台に上ったことから、自社の低価格モデルの参入チャンスは十分にあるとみている。

イランの乗用車市場は、国内最大手のイラン・ホドロ（IKCO）とサイパーが合わせて85%強のシェアを握る。これに、中国・奇瑞汽車と地元モディランとの合弁会社が6%で続いている。

なお、昨年2月にサイパーがロシアへ4万5,000台を輸出する計画が発表されたが、12月にロシア代理店のベストモーターズが契約を解消した。為替相場の動向などを踏まえ、販売価格が高くなりすぎると判断したのが理由だ。

OST42100

©2024 FBC Business Consulting GmbH

その他産業

ポーランドのオルレン

モビリティ向け水素インフラ整備でEU助成獲得

- **助成額 6200 万ユーロは水素関連開発への EU 助成として過去最高**
- **営業用水素ステーションや高性能の水電解施設を設置する**

ポーランド石油大手オルレンが進める水素モビリティ・プロジェクト「クリーンシティ」が、欧州連合（EU）から 6,200 万ユーロの支援を受ける。水素関連開発への EU 助成として過去最高の金額だ。国内の 16 カ所に営業用水素ステーションを設置するほか、再エネ電力を用いる高性能の水電解設備を設置する。

欧州委員会は 10 日、コネクティング・ヨーロッパ・ファシリティ（CIF）の代替燃料インフラファシリティ（AFIF）に応募のあったプロジェクトから 42 件を支援対象として選び、総額 4 億 2,400 万ユーロの助成金を支給することを決定した。このうち 1 億 2,000 万ユーロ強が水素充填インフラ向けで、その半分をオルレンが受け取ることになる。

「クリーンシティ」プロジェクトはすでに第 1 期、第 2 期投資がスタートしており、今回、助成が決まったのは第 3 期投資についてだ。汎欧州運輸ネットワーク（TEN-T）沿いの 16 カ所に充填ステーションを設けるほか、ドイツとの国境に近いシュチェチンで、自動車燃料グレードの水素生産施設を整備する。

第 1 期、第 2 期投資では、中部のヴウォツワヴェクでやはり自動車燃料グレードの水素生産施設を建設し、ポズナニ、カトヴィツェ、ゴジュフ・ヴィエルコポルスキ、クラクフ、ビエルスコ・ビャワ、ヴウォツワヴェクの 6 都市に充填ステーションを設置する。これらについても EU から 7,000 万ユーロの支援を受けている。

オルレンは 2030 年までに、ポーランドとチェコ、スロバキアの 100 カ所に水素ステーションを整備する計画だ。これには自動車だけでなく鉄道車両向けも含まれる。また、水素電解能力を合計 1 ギガワット（GW）に引き上げる方針だ。

OST42101

免責事項

弊社との契約でご指定になった住所の事業所及びEメールアドレス以外に本誌を配布・転送することを固く禁止いたします

本誌のご利用によって生じたトラブル・損失・損害に関し、当社は一切の責任を負いません

Rechtsform: GmbH Sitz: Frankfurt am Main HRB 44664

Geschäftsführer: Susumu Fujita

©2024 FBC Business Consulting GmbH

伊産業ガスSIAD、スロバキアでCO2回収・液化設備が稼働

- **バイオエタノールの製造過程で発生する CO2 を回収する**
- **食品グレードの CO2 を年 4 万トン生産可能**

稼働を開始した CO2 の回収・液化設備

イタリアの産業ガス大手 SIAD は18日、スロバキアのバイオエタノール大手エンヴィラル（Enviral、エンヴィエン・グループ）のレオポルドウ工場で、二酸化炭素（CO2）の回収・液化設備を稼働させたと発表した。バイオエタノールの製造過程で発生するCO2を回収し、産業ガスとして需要家に供給する。エンヴィラル製バイオエタノールのカーボンフットプリント削減に貢献する狙い。また、バイオ燃料の普及で化石資源の利用を抑制することで、間接的な形でも環境保護に貢献できるとみている。

レオポルドウの CO2 回収・液化設備はエンヴィラル及び現地のスロベンスケー・リエホヴァリ・ア・リケールキとの提携を通じて設置された。投資規模は約 1,100 万ユーロ。SIAD の子会社であるテクノ・プロジェクト・インドストリアーレの技術を採用している。

食品グレードの CO2 を年 4 万トン生産できる。これはレオポルドウ工場で発生する CO2 の約 30%に当たる。将来的に年産能力を 8 万トンへ引き上げることも視野に入れている。

SIAD ではスロバキアおよび周辺国の需要家に CO2 を供給する計画だ。

OST42102

ジェネリック薬サンド、スロベニアでバイオシミラーの開発拠点を着工

- **約 200 人を雇用し、原薬と医薬品の包括的な開発を行う**
- **サンドは同国東部のレンダヴァにもハイテク生産拠点を建設中**

スイス製薬大手ノバルティスのジェネリック薬（後発医薬品）子会社サンド（Sandoz）は 19 日、スロベニアの首都リュブリャナの拠点でバイオシミラー（バイオ医薬品の後発薬）の技術開発センターを着工した。約 200 人を雇用し、原薬と医薬品の包括的な開発を行う。投資額は約 9,000 万米ドル。2026 年の完成を予定する。 新しい開発センターは面積が 9,500 平方メートル。腫瘍や自己免疫疾患の分野でバイオシミラーの開発を行う。

サンドは現在、同国東部のレンダヴァにバイオシミラーのハイテク生産拠点を建設しているほか、独ホルツキルヒェンの拠点でもバイオシミラーの開発能力を強化している。新センターの設置はこれらの計画を補完するものとなる。スロベニア法人のロバート・ジョルジュ社長（現地子会社レクの最高経営責任者＝ CEO）は「スロベニアは医薬品とバイオテクノロジーの分野で欧州の主要国の中での地位をより強固にするだろう」と述べた。

ノバルティスは 02 年にレクを買収してスロベニアに進出した。同国中部メンゲスでは遺伝子組み換え技術センターを 12 年から運営している。

OST42103

©2024 FBC Business Consulting GmbH

建材大手の独クナウフ、ロシアから撤退へ

- **現地事業を継続していることへの批判を踏まえた措置か**
- **同社はロシアで 14 工場を展開、4000 人強を雇用**

建材大手の独クナウフは22日、ロシア市場からの全面撤退方針を明らかにした。「現在の展開を背景に決断した」としているが、撤退の具体的な理由は明らかにしていない。同国のウクライナ侵略開始から 2 年以上が経過したにもかかわらず現地事業を継続していることへの批判を踏まえた措置との観測がある。

クナウフは世界に計 300 以上の工場を持つ世界的な建材メーカーで、従業員数は約 4 万人に上る。2022 年の売上高は 154 億ユーロだった。

ロシアでは計14工場を展開している。従業員数は4,000人強。同社は声明で、現地の雇用を守るため、原料採掘から生産、販売に至る全事業を同地の経営陣に譲渡する考えを示した。取引の成立にはロシア当局の承認が必要となる。

クナウフに対してはロシアに対する制裁を順守していないとの疑いが先ごろ、浮上した。独公共放送ARDは今月初旬、ロシアが占領しているウクライナのマリウポリで同社の社名が記された石膏袋を見かけたとして、ロシアによるマリウポリ再建を支援している疑いがあると報じた。同社は欧州連合（EU）、英国、米国の対露制裁をすべて守っていると反論したものの、販売事業者を通して自社製品が同地で使われている可能性については否定できなかった。ロシアからの撤退がこの報道を受けた措置かどうかについてコメントを控えている。

OST42104

ウクライナの水素開発プロジェクト

戦火の中でも前進

- **西部の 2 カ所に大規模な水電解施設を整備する**
- **製造した水素は欧州の産業需要家に供給**

ウクライナでは戦火の中でも水素開発プロジェクト「H2U ハイドロジェンバレー」が進められている。西部の2カ所に大規模な水電解施設を整備するもので、電源として再生可能エネルギーの活用を目指す。製造した水素は欧州の産業需要家に供給する。

同プロジェクトはヴォデン・ウクライーニ（Voden Ukrainy）が開発を進めている。まずはオデッサ州西部に100メガワット（MW）の電解プラントを建設する。原料となる水はドナウ川から取水し、電力は風力・火力発電所から調達する。最終的に電解槽の容量を 200MW へ引き上げたい意向だ。

2 つ目の電解プラントは最西部に位置するザカルパッチャ州に設置する。総容量は当初1,100MWで、将来的に最大1,500MWへ強化することを視野に入れている。電源としてソーラー発電所（出力120MW）と風力発電所（同160MW）を整備する。ソーラー発電所は出力を最大1,200MWに引き上げることが可能という。

生産した水素は、スロバキアのコシツェにある冶金工場に供給する。同工場では脱炭素化の一環として、コークスを水素に置き換える計画だ。

プロジェクトの現在の課題は資金調達。ロシアによる攻撃で大規模な公共投資は期待できない。このため、他の調達先を模索している。

OST42105

©2024 FBC Business Consulting GmbH

総合・マクロ

資本市場統合に向け協議加速、競争力強化へ域内の投資促進

- **国境を越えた投資を促進し、企業が資金調達しやすくする狙い**
- **域外に流れる多額の民間貯蓄を域内への投資に誘導する**

欧州連合（EU）は18日に開いた首脳会議で、域内経済を活性化し、デジタル産業やクリーンエネルギーなどの分野で競争力を強化するため、域内の資本市場を統合して単一市場を構築する「資本市場同盟」の実現に向けた協議を加速させることで合意した。域内の国境を越えた投資を促進し、企業が資金調達しやすくするのが狙い。資本市場統合に向けて加盟国と欧州委員会で詳細を詰め、6月の閣僚理事会で進捗状況を確認したうえで追加的な措置について協議する。

首脳会議では、イタリアのレッタ元首相がまとめた単一市場と競争力に関する報告書をもとに議論が行われた。レッタ氏は地政学的な緊張と保護主義の高まりがEUの経済安全保障を脅かし、人工知能（AI）やクリーンテクノロジーなど先端技術への取り組みや、グリーン経済への移行とデジタル移行の動きを鈍らせたと分析。EU域内に約33兆ユーロに上る民間貯蓄がありながら、その多くが米国市場に流出している現状に触れ、これを域内への投資に誘導するうえで資本市場同盟の創設が鍵を握ると指摘する。

同氏はまた、EUは加盟国間の競争環境を不当にゆがめる可能性があるとして、特定の企業に対する国家補助を原則禁止しているが、国内産業の振興を目的とする米国の「インフレ抑制法（IRA）」や中国の産業補助金に対抗するため、EU全体の利益につながるプロジェクトに対して国家補助を提供できるようにすべきだとの考えを示している。

首脳会議で採択された文書によると、加盟国は「新たな地政学的現実とますます複雑化する課題に直面するなか、長期的に競争力と繁栄、国際社会でのリーダーシップを確保し、戦略的自立性を高めるため、EUは断固とした行動を取る必要がある」との認識で一致。競争力強化に向けて改革や政策の見直しが必要な9つの分野（単一市場、資本市場同盟、産業政策、研究・イノベーション、エネルギー、循環型経済、デジタル化、社会政策、貿易）を特定し、早急に具体策を検討することで合意した。

このうち資本市場同盟に関しては、域内の資本市場を統合して加盟国間の規制や手続きの違いを減らすことで、民間貯蓄を主要な戦略的セクターやインフラへの投資に誘導しやすくなり、中小企業や新興企業を含め、域内の企業は低コストで多様な資金にアクセスできるようになると強調。加盟国間で異なる企業の倒産手続きに関する法律の調整や、欧州証券化市場の再生に向けて必要な措置を講じる方針を確認するとともに、EU全体の資本市場をカバーする効率的な監督体制について欧州委員会に検討を要請した。

欧州委のフォンデアライエン委員長は会議後の会見で、「EU域内の貯蓄のうち毎年3,000億ユーロが米国を中心とする域外に流出している。これは資本市場と金融システムの断片化による弊害で、欧州企業の成長が阻害されている」と指摘。資本市場の統合が実現すると、欧州企業は年間4,700億ユーロの追加的な資金調達が可能になるとの欧州中央銀行（ECB）の試算を引用し、気候変動対策やデジタル移行、防衛費増額などの財源確保に苦慮する加盟国にとって大きな助けになると強調した。

合意文書にはこのほか◇単一市場を深化させ、国境を越えたサービスの提供やニーズに応じた医薬品などの自由な流通を促進する◇産業部門の脱炭素化を推進してデジタルおよびクリーン技術におけるEUの競争力を強化するとともに、戦略的サプライチェーンを多様化して防衛技術基盤を強化する◇研究・開発費の対GDP比3%の目標達成に向けて投資を拡大し、イノベーションに適した環境を育成しながら市場の取り込みを図る◇ビジネス、公的機関、社会のデジタル化を推進し、デジタルサービスとデータの単一市場を構築する――などが盛り込まれている。

OST42106

©2024 FBC Business Consulting GmbH

ユーロ圏の24年予想成長率、0.8％に下方修正＝IMF

- **前回 1 月の 0.9%から 0.1 ポイント下方修正**
- **主要国では独が 0.2%、仏伊が 0.7%、西が 1.9%**

国際通貨基金（IMF）は 16 日に発表した最新の世界経済見通しで、ユーロ圏の 2024 年の予想成長率を 0.8％とし、前回（1 月）の 0.9%から 0.1 ポイント下方修正した。世界経済全体は物価高の緩和や米国経済の高成長にけん引され、0.1 ポイントの上方修正となる 3.2%としたが、ユーロ圏については欧州中央銀行（ECB）の金融引き締めによる景気圧迫効果が続いていることや高水準の賃上げ、ドイツやフランスの個人消費停滞などを理由に引き下げた。

ユーロ圏主要国の予想成長率はドイツが 0.2%、フランスとイタリアが 0.7%、スペインが 1.9%。ドイツとフランスは 0.3 ポイントの下方修正となった。イタリアは据え置き。スペインは 0.4 ポイント上方修正された。

ユーロ圏の 25 年の予想成長率は 1.5%で、0.2 ポイントの下方修正となった。

OST42107

編集後記

ポーランドの『Business Insider』誌が、オフィス代わりにやって来る客に対するカフェオーナーのぼやきを伝えています。それによると、客たちは「カプチーノ1杯」で「端末を充電」しながら「数時間」滞在していくとのこと。ポズナン市のあるカフェオーナーはiPadやラップトップの使用禁止に踏み切ったと話します。

一方、ポーランドではカフェの飲料価格が比較的高く、利益率も高めです。このため、充電のサービスや夏場のクーラーなどは1杯のコーヒーに付加価値をもたらすとの意見もあります。ちなみにワルシャワにおけるカプチーノの平均価格は14ズロチ（3.24ユーロ）と、ドイツの地方都市とほぼ同等です。

新型コロナの流行を受けてポーランドでも在宅勤務が普及しており、その影響がカフェにも及んでいると言えそうです。（1ユーロ=4.31ズロチ）

©2024 FBC Business Consulting GmbH